

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野
学籍番号	15S3067	院生氏名	屋嘉比 章紘
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論文題目	円背を有する女性における腹部引き込み運動が腹部体幹筋厚に及ぼす影響		
審査結果(枠で囲む)	合格 不合格		
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の概要 <p>本研究は円背を有する高齢女性の腹部体幹筋厚を指標にして、腹部引き込み運動が円背を有する高齢女性の腹部体幹筋の動態に与える影響を検証したものである。</p> <p>論文は3つの研究から構成されており、まず健常女性31名を対象に疑似円背姿勢が腹部体幹筋厚に及ぼす影響を検討し、45°円背条件にて腹部引き込み運動による腹直筋と内腹斜筋および腹横筋の筋厚の増加が生じることを明らかにした。次に円背を有する高齢女性58名を対象に腹部引き込み運動が腹部体幹筋厚に及ぼす影響を検討し、円背指数に関わらず腹部引き込み運動によって腹部体幹筋厚が増加することを示した。最後に、安静時の腹部体幹筋厚と年齢および円背指数との関係および腹部体幹筋を使用する3種の運動課題実施中の腹部体幹筋厚変化率を検討した。結果として安静時の腹部体幹筋厚の値は健常女性の疑似円背群より高齢円背群は小さいものの、腹部引き込み運動中の腹部体幹筋厚変化率は高齢で円背を有する女性においても健常女性との差は認められず、同運動手法が高齢円背女性の腹部体幹筋の活動を高める運動療法として応用できることを示した。</p> </li> <li>・知見の新規性と価値について <p>本研究の新規性は、円背高齢者を対象とした腹部引き込み運動が腹部体幹筋群の筋厚を変化させることを明らかにし、脊柱の可動性が低い円背高齢者においても同運動による腹部体幹筋の活動が生じることを示したことにより、高齢者を対象とした理学療法の発展に寄与する研究として高く評価できる。</p> </li> <li>・審査の経過 <p>第1回審査会は12月8日(金)に開催された。プレゼンテーション後に実施された口頭試問において、研究における倫理的配慮に必要な論文記載方法、対象者の性別の統制および統計手法の妥当性など複数の指摘があり、論文記載方法の修正、データの再収集および解析手法の再検討を求めた。第2回審査会は1月12日(金)に開催され、全審査員の指摘事項について丁寧かつ適切に対応し、修正論文を提出した。</p> <p>以上の結果から、審査員全員は本人が学位申請論文の内容および関連事項について十分な学識を有しており、本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p> </li> </ul>			
論文審査担当者	主査	糸数 昌史	
	副査	堀本 ゆかり	
	副査	只浦 寛子	

